

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	41人	国語B	41人
② 算数A	41人	算数B	41人

5 留意事項

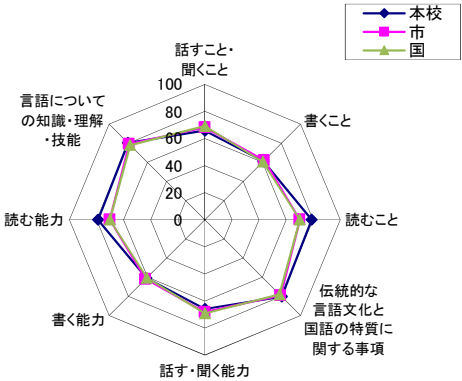
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

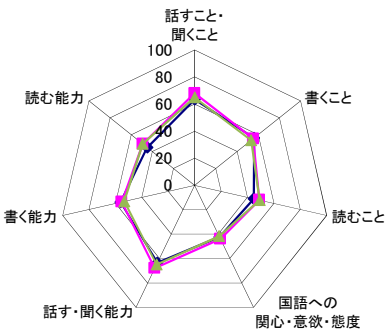
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.9	68.2	69.2
	書くこと	61.0	62.0	60.6
	読むこと	78.9	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.3	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	65.9	68.2	69.2
	書く能力	61.0	62.0	60.6
	読む能力	78.9	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	80.3	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.4	68.0	64.9
	書くこと	56.1	55.3	53.4
	読むこと	44.7	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	42.3	43.9	41.7
	話す・聞く能力	63.4	68.0	64.9
	書く能力	56.1	55.3	53.4
	読む能力	44.7	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

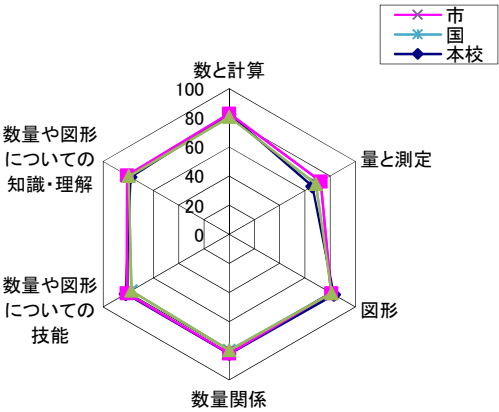
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aの考えの共通点や相違点を整理しながら、進みに沿って話し合うことについての設問では、平均正答率が65.9%で全国平均の69.2%よりも3.3ポイント低かった。 ●国語Bにおいて、平均正答率が63.4%で全国平均の64.9%とほぼ同程度であったが、スピーチメモの良さの捉え方に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常生活の中で話を聞く際のポイントを明確にし、話の中心や内容に気を付けて聞くように指導することで、話し手の考えを捉えられるようにする。また、スピーチメモを積極的に取り入れ良さについて意識できるように指導する。
書くこと	●国語Aでは、平均正答率が61.0%で全国平均の60.6%と同程度であった。手紙の後付けを書く問題に、課題が見られた。 ○国語Bにおいて、平均正答率が56.1%で全国平均の53.4%よりも2.7ポイント高く、特に、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く問題は、全国平均より10.9ポイント高い結果であった。	・文章の書く際のポイントを明確にし、目的や意図に応じて自分の考えを書けるようにする作文指導は今後も継続していく。また、手紙の書き方等の指導も機会をとらえて意図的に取り入れていく。
読むこと	○国語Aでは、平均正答率が78.9%で全国平均の69.2%よりも9.7ポイント高く、特に俳句の良さを問う問題では、全国平均より16.2ポイント高い結果であった。 ●国語Bにおいて、平均正答率が44.7%で全国平均の49.2%よりも4.5ポイント低い。物語を読んだ後の、話し合いにおける発言の意図を捉える問題や条件を抑えながら自分の考えを書く問題に課題が見られた。	・本を読むことを奨励し、長文の読み取りに慣れさせるとともに、条件を押さえ、理由を明確にしながら自分の考えを書く練習を繰り返す行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは、平均正答率が80.3%で全国平均の78.0%よりも2.3ポイント高い。漢字を書くことに若干課題が見られる。	・日常的に漢字練習やミニテストを行い、繰り返し意識させることで、漢字の習得を更に図っていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

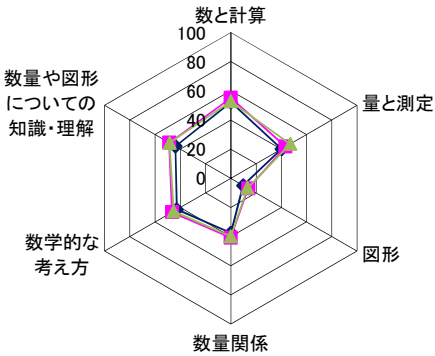
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.6	82.9	80.6
	量と測定	65.9	72.5	68.8
	図形	82.9	80.8	81.1
	数量関係	82.0	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	82.0	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	78.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.2	55.1	52.8
	量と測定	40.2	43.4	47.0
	図形	9.8	13.8	13.2
	数量関係	37.5	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.8	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	43.9	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aでは、平均正答率は82.6%で、全国の正答率80.6%と比べて2.0ポイント高い。わり算を分数で表す問題では、全国の正答率を18.6ポイント上回っている。 ●算数Bにおいて、平均正答率は52.2%で、全国の正答率52.8%と比べて0.6ポイント低い。多くの問題で同程度であるが、13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く問題では全国の正答率よりも10.3ポイント低い結果であった。	・朝の学習の時間を有効に活用して着実に定着するように繰り返し指導していく。また、家庭学習でも取り組めるよう、苦手な部分を意識して取り組めるようにする。
量と測定	●算数Aでは、平均正答率は65.9%で、全国の正答率68.8%よりも2.9ポイント低い。求められた平行四辺形と面積の半分の面積である三角形を選択する問題の正答率は65.9%で、全国の正答率の67.0%と同程度である。 ●算数Bでは、平均正答率は40.2%で、全国の正答率47.0%より6.8ポイント低い。特に、仮の平均の考えを活用して、測定値の平均の求め方を説明する問題では、全国の正答率より11.6ポイント低い。	・重さや長さを任意単位による測定を基にして比較することへの理解が不十分であることから、数直線や図などを用いて理解をさらに深めていく。また、日常生活の場面で生かした問題に触れ、読解力を高めるとともに、授業の中でも説明する機会を多くもち、的確な表現ができるように支援する。
図形	○算数Aでは、平均正答率は82.9%で、全国の正答率81.1%より1.8ポイント高い。さらに、円を使って正五角形を書くとき、周りの角を何度ずつ分割するかを求める問題では、全国の正答率より9.9ポイント高い。 ●算数Bでは、平均正答率は9.8%で、全国の正答率13.2%より4.2ポイント低い。特に、身近なものに置き換えられた基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断理由を記述する問題の正答率が9.8ポイントと極めて低い結果であった。	・全体量に対する部分の大きさや基準量と比較量の関係の理解が不十分であると考えられる。生活の中に見られる身近な題材を取り入れて、体験的に理解できるようにする。また、基本的な内容の復習問題に、繰り返し取り組んでいく。
数量関係	○算数Aでは、平均正答率は82.0%で、全国の正答率79.6%より2.4ポイント高い。これは、資料から二次元表に分類する仕方の理解が十分であることが理由と考えられる。 ●算数Bでは、平均正答率は37.5%で、全国の正答率40.0%より2.5ポイント低い。割合を比較するという目的に適したグラフを選択する問題で、全国の正答率を7.3ポイント下回った。	・表の読み取りが不十分である。理科の実験の表やグラフ、国語の説明文や社会の表やグラフなど、他教科の内容と関連を図りながら読み取る力を養っていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」の問いに肯定的割合が92.8%と高い。今年度は最高学年として様々な取り組みをしてきた成果が見られる。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の問いの肯定的回答率は73.9%であることから、達成感がすぐに自主的な行動に結びついていないとは言えない。さらに「自分にはよいところがあると思うか」の問いの肯定的回答率は80.9%であることから、自己肯定感をさらに高めるような支援をしていきたい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の問いに「当てはまる」が90.5%「どちらかといえば当てはまる」が9.5%で合わせて肯定的回答の割合が100%になった。日頃の指導の成果と考える。引き続き指導をしていきたい。

○「家の人とルールを決めているか」「家の人と将来について話すか」「家の人は学校行事に来るか」などの肯定的回答割合は全て高く、全国、県の割合を上回っている。

○「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」の肯定的回答割合は90.5%、「先生は分かるまで教えてくれるか」の肯定的回答割合が97.6%で高かった。しかし、「当てはまらない」の回答がどちらも2.4%ずついる実態もあることから、今後更に学校生活の充実や丁寧な個別指導を通じた支援をしていきたい。

●「毎日おなじくらの時間に寝ていますか」の問いの肯定的回答率は95.2%で高かったが、それに対して「同じ時刻に起きているか」の問いには、肯定的回答率は83.3%であった。二つの問いを合わせて考えると、生活の不規則さが伺えるので、規則的な生活習慣を指導していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意か」の問いの肯定的回答率は、40.5%で極めて低い。これは生活面だけでなく、学力に対する自信などにも関係があると考えられ、自己肯定感の低さにもつながると思われる。確かな学力と充実した生活を実現させることで、自信につなげていきたい。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりするか」の問いで、平日は1時間以上2時間より少ないの回答率が35.7%で一番多いが、一方で、4時間以上と3時間以上の長時間にわたり視聴していると答えた児童が合わせて21.4%もあり、全体の1/5を上回っている。テレビゲーム時間についての問いでは、1時間以上の児童が52.3%であった。平日の放課後の過ごし方として、テレビやビデオ・DVDテレビゲーム等で過ごす児童が多いこと、またその時間が長いことがわかる。学級懇談会などの機会を捉え、適切な生活について伝えていきたい。

●「学校の時間以外の1日当たりの勉強時間」についての問いでは、「1時間より少ない」「全くしない」の回答率が40.5%、更に、土日など学校が休みの日の学習時間は「1時間より少ない」「全くしない」が45.3%に増加し、半数近い割合で家庭の生活習慣の中に1時間以上の学習が位置付けられていないことがわかる。家庭との連携を図りながら、継続的に取り組んでいきたい。

